02 Yagi Studio

やぎ　すたじお

http://www.yagi-st.co.jp/

1974 年創立の京都市で広告写真撮影を主とする撮影スタジオ。デジタル写真撮影及びレタッチ、CG を使った画像制作、ムービー制作、インターネットのホームページの企画・制作および運営、パンフレット等の印刷物制作などを行う。

［静止画］
http://www.gettyimages.co.jp/Search/Search.aspx?assettype=image&artist=Yagi+Studio

［動画］
http://www.gettyimages.co.jp/Search/Search.aspx?assettype=film&artist=Yagi+Studio

144635415, Yagi Studio/ Taxi

アサインメント× ストックフォト両方の仕事を続ける意義

無国籍で近未来的な CG と、リラックスした表情のモデルをやさしい光で映し出す写真、それがゲッティ イメージズで見られる Yagi Studio の作風だ。

若々しさが漂う作品世界だが、実際の Yagi Studio は 40 年以上の歴史ある京都の老舗写真スタジオであり、フォトエージェンシーとの仕事も長きにわたっている。

156508557, Yagi Studio/ Stone

144635416, Yagi Studio/ Taxi

168918858, Yagi Studio/ Taxi Japan

141799974, Yagi Studio/ Lifesize

フォトエージェンシーとの付き合いについて話を伺うと、代表取締役社長の八木博司さんが 20 代の頃、当時日本でストックフォトの草分け的存在であった芳賀日出男氏の勧めで、ヨーロッパ各地で撮りためた約 1000 枚の写真をライセンス販売したのが始まりだそうだ。その後、アメリカのストックフォトエージェンシーとも契約し、国内外で撮影した写真のライセンス販売を続けた。間に休止期間をはさみ、2010 年 6 月よりゲッティイメージズと契約。2013 年 7 月現在、約 4 千数百点の写真をゲッティ イメージズサイト上で販売し順調に売り上げを伸ばしている。現在は、社長の息子でありスタジオを代表するフォトグラファーである八木宣行さんが制作を一手に引き受け、アサイメント（広告の依頼撮影）とストックフォトの仕事のバランスをとりながら撮影に励んでいる。

「アサイメントとストックフォトの仕事の両方を続けることが大事なんです」と宣行さんは言う。「アサイメントはクライアントからの依頼で " 受ける " 仕事ですが、ストックフォトは自分で " 考える " 仕事。いわゆる感覚や発想力を鍛えるためにとても役に立っていると思います。一方、ストックフォトの仕事ばかりしていても、アイデアが出なくなって行き詰まったりするのでアサイメントも大事なんです。」

しばしば語られるアサイメントと比べた際のストックフォトの認識の低さについて話を向けると、「父がストックフォトの仕事を始めたころは確かに『こんなものが売れるのか』と馬鹿にされたこともあったようですが、ある一定の売上が出ると何も言われなくなった。若いフォトグラファーは特にアサイメントだけで食べていくのは難しいじゃないですか。だったら、自分の作品を撮ってエージェンシーに預けてみて、売れれば売れたでいいですし、あかんかったら勉強代と思えばいい。写真を世界中の人に見てもらえるし、それで認知が広がる。大きなメリットですよ。」

地域や国を超えて
多くの写真に触れることが大切

「一時は東京で働いていたこともあるのですが、やっぱり東京の忙しさにはついていけないですね。東京じゃなくてもできることはたくさんあるし、特に今の時代はネットで簡単に海外ともつながれる。」

代表取締役社長の博司さんは 20 代で海外に出たというし、現在はゲッティ イメージズを通じて海外で多くの写真をライセンス販売するなど、「基盤」という感覚を離れたボーダレスな感覚が Yagi Studio の文化とも言えそうだ。

その文化は写真に対する向き合い方にも反映されている。

「写真は技術だけじゃなく、見る力を養うのが大切だと思います。ものの見方というか、どう見るか、どういう立場で見るか、それをどう表現するか。いろいろな経験をして自分だったらどうするかを考える。そして世界にはどんな題材があり、どんな写真があるのかを知ることも大切。多くの写真集を手に取り、また、ネットで写真を見るようにしています。それで自分の今の位置を知ることができると思うんですよ。ゲッティ イメージズも世界各地で撮られた“いろんな人の様々な作品を見ることができる場所”のひとつと言えるんじゃないでしょうか。正直、いいものも悪いものもいろいろあるな、という印象です。でもだからこそいい。もし全部が全部いいものだとそれが普通になってしまいますしね。良いと思ったものが必ずしも売れるわけではないのがまた面白い。契約を始めてから今まで、すべての売上の統計を取っているのですが、この先も同じものが売れるとは限らない。利用者のニーズは日々変わっていくんですよね。だから作り続けていくことが大切なんです。」

134300088, Yagi Studio/ Taxi

154137352, Yagi Studio/ Digital Vision

144652301, Yagi Studio/ Digital Vision

148175578, Yagi Studio/ Digital Vision

150323431, Yagi Studio/ Digital Vision

159314543, Yagi Studio/ Taxi Japan

170863734, Yagi Studio/ Digital Vision

テクノロジーへの膨大な投資と新しいものへの順応力

前述のとおり Yagi Studio は CG と写真を融合させた作品が多くあるが、新しいテクノロジーへの傾倒と熱中は並大抵ではない。

「CG は早かったですよ。早すぎた（笑）」と語る通り、Photoshop の発売以前から、Sony の NEWS を事務所に導入し、3D 作品をまとめた書籍を出版するなど、いち写真スタジオの枠を超えた熱狂ぶりだったそう。その設備投資額たるや億を超えるというから驚きだ。

そして現在も新しい手法を抵抗なく取り入れる DNA は引き継がれている。

「2013 年の 3 月くらいからゲッティ イメージズのアートディレクターの勧めもあって動画を始めました。まだ手探りですが、フィルムからデジタルに移行した時のように、流れに乗っていこうかと。製作のコツがわかってくると面白いし、はまりそうです。静止画では、コンセプチュアルなスタジオものも撮ってくれと言われているし、父の友人のシニア層の撮影もすることにしているし、知り合いの弁護士の働くシーンも撮りたい。やることがいっぱいなんです！」と楽しそうに語る。

Yagi Studio はこれからも歴史と経験に裏打ちされた確実な技術と、伸びやかな表現で私たちの見たことのない新しい写真や動画をゲッティ イメージズサイトで発信するだろう。その動向に注目していきたい。